

「地域の未来をつくる人をつくる」

VOL.
3

～チャレンジを応援する「第三の居場所」～

特定非営利活動法人みしまびと（静岡県三島市）

2026.3.16

まちづくり活動の「はじまり」

特定非営利活動法人みしまびと（以下「みしまびと」という）は、「映像を切り口に地域活性化をしたい」という思いから、2014年に活動をスタートした。

みしまびとの活動が始まる以前から、三島市では市民活動が盛んに行われ、「まちを良くしよう」と活動する人や団体が多く存在していた。こうした中、思いを共にする人々がつながるプラットフォームを作りたいという思いから、映画づくりを手段としたプロジェクトがスタートした。このプロジェクトでは、「映画制作でレッドカーペットを歩こう」「100年後も残る作品を作ろう」というビジョンを掲げて仲間を募った。そして、そのビジョンに共感した、様々な世代や職業、居住地の人たちが集まり、三島を舞台とした映画づくりが始まった。



映画づくりにあたっては、演技や撮影といった専門的な部分はプロに依頼しつつも、撮影時の交通整理やお弁当の準備、エキストラ出演など、その他のサポートはすべて市民ボランティアが担った。こうして、家族の強い絆と愛を描いた映画「惑う～After the Rain～」が、2017年に全国の映画館で上映された。延べ1万人のボランティアの思いが詰まったこの映画には、ストーリーとともに美しい三島市の情景が映し出されており、地域内外から大きな反響を得た。

また、国内だけではなく、アメリカのハリウッドで開催されたユニバーサル多文化映画祭でグランプリを受賞するなど、国際的な成果も収めた。さらに、活動開始時の「レッドカーペットを歩こう」という夢も、ベトナムのハノイ国際映画祭で実現した。

映画から「みしま未来研究所（ミラケン）」という拠点づくりへ

映画制作を通して、多くの人が集い、関わり合う「交流の場」が生まれたことから、みしまびとのメンバーは、「地域の未来をつくる人が集える場所づくり」に取り組むこととした。

同時期に、三島市では、旧中央幼稚園を活用した賑わい創出事業のプロポーザルを開始した。旧幼稚園は、10年ほど前に廃園になっていたが、映画の撮影でも使用された思い出のある場所であった。みしまびとは、この場所を地域の未来をつくる人が集う拠点にしようと考え、このプロポーザルに応募し、見事採択され、拠点づくりがスタートした。

みしま未来研究所の開設にあたり、「地域の未来をつくる人をつくる」というみしまびとのビジョンを具体化して議論をしていく中で、2つの軸が浮かび上がった。

1つは、10年後20年後に、地域を担っていく存在を育てていくトップランナーの輩出。そして、もう1つは、今やりたいことがある人たちが一歩踏み出せる場の創出だ。

その両方を実現していくために、みしま未来研究所にどのような機能が必要か考え、コワーキングスペース、レンタルスペース、カフェの3つの機能を備える施設を設計した。

こうして、倉庫のようにになっていた旧幼稚園は、2019年に「地域の未来をつくる人が集える場所」として、みしま未来研究所へ生まれ変わったのである。

リノベーションにあたっては、クラウドファンディングや内装のペンキ塗り、家具づくりなどDIYイベントを実施し、映画制作で実感した「つくる」ことによる自分ごとにする機会を設け、地域の人々と一緒に作業を進めた。

① コワーキングスペース

コワーキングスペースのテーマは、「つながりを楽しむワークスペース」。利用会員の仕事をサポートするため、ミーティングスペースや複写機、ポスト、ロッカーなどを備えている。

利用会員は月に1度、ランチミーティングを開催しており、仕事や現在興味のあることなどのショートプレゼンを行ったり、併設のカフェバーに立ち寄って会話を楽しんだりするなど、会員同士の交流も行っている。

現在、このコワーキングスペースには、個人事業主や起業家、学生など20名以上が利用登録している。



コワーキングスペース



レンタルスペース

② レンタルスペース

レンタルスペースは、人数や用途にあわせて3つのスペースを備えている。キッチン付きで、イベントやパーティー、会議、研修などに使える「多目的スペース(大)」と、ソフトマットを敷いてマッサージやヨガなども開催できる「多目的スペース(中)」、土日祝限定の貸し出しで、ポップアップ店舗（期間限定の店舗）などの利用ができる「多目的スペース(ミニ)」がある。

これらは、個人・法人を問わずに利用でき、日々絵画教室や日本酒講座など各種講座の開催も多く、地域の学びの場にもなっている。

③ Cafe&Bar Blooming

Cafe & Bar Blooming は、地元のクラフトビールを中心に、約80種類のクラフトビールを常備していることが特徴である。昼間はカフェとして営業しており、昼夜を問わず多様な交流が生まれる場となっている。

この運営は、はじめはボランティアのみで行っていたが、現在は「地域とのつながりがほしい」「地域のことを知りたい」との思いがあるボランティアとアルバイトが行っている。



Café&Bar Blooming

賑わいの拠点が創出する「日本一心躍る出会い」

みしま未来研究所は、多様な人々が集まる「地域の入り口」となっている。例えば、コワーキングスペースは、単に仕事をする場ではなく、利用者が分野を超えて相談し合ったり、世代を超えた交流が行われたりと「つながりの場」として活用されている。また、もともと園庭であった場所は、広場として活用されており、マルシェの開催や近くの保育園のお散歩ルートとしての利用など、地域の多様なニーズに応える活用がなされている。

みしま未来研究所における交流は、立場や役割の境界線が極めて低く、誰もがいつの間にか当事者になれる連鎖が生まれている。

例えば、施設内でウクレレの練習会が行われていれば、その音色に誘われて通りかかった人がふらりと立ち寄り、楽器の体験会が始まるといった、開放的で温かな光景が日常的に生まれている。また、移住を検討してカフェを訪れた人が、隣り合わせた常連客と会話が深まり、新しいイベントの企画が立ち上がるなど、ゲストから当事者へと立場が変わることもある。さらに、施設のアルバイトスタッフが、多様な活動に触発され、自らの想いを形にするイベントを企画・開催した事例もある。

このように、この場所に関わる全ての人々が互いに刺激を与え合い、新たなアクションを引き出し合う循環が生まれている。

継続によって得られた信頼と未来への展望

地域の交流の場として、三島市の地域活性化に大きく貢献しているみしまびとであるが、活動開始当初からスムーズに事業を進められたわけではない。当初は、三島市にコワーキングスペース自体がなく、「コワーキング」や「交流拠点」という概念自体に馴染みがなかったため、住民の間には、実態のつかめない場所としての警戒感も少なからず存在していた。また、住宅街で、夜間の飲酒による騒音、見慣れない人々が頻繁に出入りすることへの防犯面での不安もあった。

そこで、懸念を持つ近隣住民には、必要に応じて直接活動の趣旨を説明したほか、毎月欠かさず「施設の様子」をまとめたチラシを作成し、町内の回覧板で継続的に情報を発信し続けた。

また、町内会の清掃活動など地域の行事には、メンバーを募って積極的に参加するなど、地域との関わりを積み重ねることによって、「顔の見える関係」が築かれ、地域の一員として認められていった。現在では、町内会にも受け入れられ、地域の祭事において「次の担い手」として期待されるまでに至っている。

令和7年度には、みしまびとの10周年記念イベントとして、これまで活用されてこなかったみしま未来研究所の前の通り（鎌倉古道）を歩行者天国にして「CHEERS MISHIMA」というイベントが開催された。このイベントでは、三島やその近郊で醸造や販売を行う5つのビアバーが、Cafe & Bar Bloomingと共にビールを販売し、参加者が地元のクラフトビールを楽しむなど、まちの賑わい創出につながった。みしまびとの活動は徐々に地域に浸透し、地域と一体となったまちづくりが実現している。

みしまびとでは、「まちを好きになるきっかけづくり」を常に模索している。それは、みしま未来研究所の中だけでなく、みしまびとのメンバーが、地元の高校の授業に参加し、将来の三島を担う若者へも影響を与えている。まちのことを知り、まちの人との出会いを通して、地域のおもしろさや可能性を感じてもらうことで、若者がチャレンジしたい、地域に関わってみたいと思える場作りに貢献している。

みしまびとが目指すのは、「地域に愛着を持って、チャレンジできる環境」と「チャレンジを応援してくれる場作り」だ。みしまびとの「三島の未来をつくる」活動は、「誰もが集える居場所づくり」を通し、今後も地域の仲間たちとともに続いていく。

♪まちづくり人(びと)からのメッセージ♪

特定非営利活動法人みしまびと 近松 歩さん

みしまびとでは、誰か特定の個人に属人化せず、「ウェルカム」「ポジティブ」「フラット」であることを信条に、持続可能でマンネリ化しない運営を意識しています。

みしまびとにとっての「地域づくり」とは、「その町を好きな人を増やすことで、チャレンジする人が増え、いろんなことが起き、応援する人が出てくる」ことです。そのまちが好きで、何かをしたい人が集まることそのものが、まちづくりにつながると考えています。



↓みしまびとHP

